



2026

学校だより **本荘** Smile

令和7年度 第45号
令和8年3月10日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

1、2年生の授業研究会の様子です。授業改善はプロ教師の証です！



2学期の11月17日には、1年生と2年生の研究授業が「ダブルヘッダー」で行われました。

1年生は道徳、2年生は算数の授業です。低学年の授業といえば、教材教具の準備が大変なイメージもありますが、1・2年生ともいつの間にか成長し、自分たちの意見をつなげて授業ができるようになっていました。その姿には、目を見張るものがあります。びっくりしますね。

1年生の道徳は「かぞくとおはなし」という授業でした。動物の家族の写真を見て気づいたことを出し合い、友達との対話を通して「自分がいかに家族から大切に思われているか」を考える展開です。1年生が次々と自分の思いを「つぶやく」姿には、参観者一同びっくり！担任の井上先生の授業力はもちろん、日頃の積み重ねによって、子どもたちが自分の意見をしっかり表明できるよう育っているのだと感じました。

本校の研究部長として授業改善を重ねてきた、井上先生の努力の賜物です。プロの教師として、授業改善という使命を再認識させてくれる授業でした。これぞプロフェSSIONALです。↗

一方、2年生は算数「三角形と四角形」の授業でした。低学年での図形の基礎を学ぶ学習です。

道徳や国語では、授業の終わりに多様な意見（「ごんぎつね」のラストに、悲しさだけでなく幸せや切なさを感じるようなこと）が期待されます。つまり多様な考えが求められます。

しかし、算数や理科は真理を学ぶ教科です。答えに至る考え方は多様であっても、最終的な「真実」は一つ（ $1+1=2$ ）に行き着きます。

今回の授業では「三角形とは何ぞや？」を追究しました。「三本の直線と三つの角がしっかりつながっていること」など、三角形を構成する要素を子どもたちが自ら導き出していきます。曲線ではだめ、直線がバラバラでもだめ。最終的には「じゃあ四角形は？」と、次の学びにもつなげていきました。このような力も必要です。

井手先生にとっても、研究授業は実力を積み上げていくための学びの場です。しっかりと授業の準備をして、子どもたちが主役の授業をつくりあげていました。担任の井手先生も子どもたちも、本当によく頑張りました！（校長）

校長先生の虫眼鏡「2学期のすこやか集会の様子です」

2学期最後の授業参観はすこやか集会でした。その時の様子です。講師の戸田先生からは、ネット社会で気をつけることや情報モラルについて学びました(^_^)



戸田先生は真和高校の先生です。校長先生や教頭先生もお世話になった素晴らしい先生です。



保護者の方にも講演していただきました。